

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13169

研究課題名（和文）戦前戦後を通貫する多目的催事空間の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Multipurpose Event Spaces in the Prewar and Postwar Periods

研究代表者

加藤 諭（Kato, Satoshi）

東北大学・学術資源研究公開センター・准教授

研究者番号：90626300

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、20世紀都市に形成された講堂、百貨店、公園の各施設がより複合的で多目的機能を有する「多目的催事空間」と定義し、戦前・戦後を通じて都市における多目的な催事のであった講堂、百貨店、公園に着目し、設定時期を通じて催事の多様性を担保した背景、展開された催事の全容、来場者や世論の反応を解明した。さらに個別分析に留まらない各施設の相互補完と連動性を抽出することで、多目的催事空間が果たした機能と役割を、総合的に分析した。対象地域として多目的催事空間が比較可能な仙台を取上げ、東京における類似施設の状況、催事の巡回性など全国的視点とも関連させて研究を進展させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、20世紀都市に登場した講堂、百貨店催事場、公園等を複合的で多目的機能を有する「多目的催事空間」として、総合的に捉えたことである。各施設は従来、選挙演説等の政治的空間、学術的成果の社会還元としての場、消費を刺激する新たな生活モデルの流行発信、衛生・防災を背景とした緑化など、相互関連の視座を欠いた画一的な評価と機能の位置づけがなされてきたが、多目的催事空間そのものの機能や役割に着目する本研究の成果は、政治史、軍事史、教育史、文化史等の歴史研究や、社会学、都市計画論、文化政策論等を架橋する議論を深化させた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we defined the auditorium, department stores, and parks that were formed in 20th century cities as "multi-purpose event spaces" with more complex and multipurpose functions. We focused on auditoriums, department stores, and parks, which were the venues for multi-purpose events in cities before and after World War II. The study clarified the background of why various types of events were held in the prewar and postwar periods, the full scope of these events, and the reactions of visitors and public opinion. We also comprehensively analyzed the functions and roles played by multipurpose event spaces by extracting the complementarity and interlocking nature of each facility, which is not limited to individual analysis. The study was further developed in relation to similar facilities in Sendai and Tokyo, where multipurpose event spaces can be compared, and to the traveling nature of the events from a nationwide perspective.

研究分野：日本史

キーワード：都市史 教育史 経営史 社会経済史 アーカイブズ学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ゲオルグ・ジンメル以来、社会学分野では、近代における都市の変容を捉える上で、ひとびとの視覚的経験が分析視角として有効性であることが示されてきた。また歴史学分野においても、新藤浩伸『公会堂と民衆の近代: 歴史が演出された舞台空間』(東京大学出版会、2014年)等によって、都市変容と催事の視角の重要性が提起されている。一方、20世紀末から21世紀にかけて、日本では文化経済学会、日本アートマネジメント学会、文化資源学会、日本文化政策学会が相次いで設立され、2017年には文化芸術振興基本法が文化芸術基本法に改正されるなど、学術研究、行政両面において日本では文化政策に関する議論が活発化してきた。こうした中、国際間都市競争の観点から、催事の蓄積を歴史的資源として、現代都市の魅力と接合させていく議論も展開されるようになってきている(福川信次・市川宏雄編『創発する都市東京』都市出版、2017年)。しかしこれまでの先行研究では、分析対象が一過性の式典祭事、また一催事施設の検討に収斂されており、常態的かつ複合的に展開されていった都市の催事を実証的に把握する研究は行われてこなかった。加えて、小林真理編『文化政策の現在』1~3(東京大学出版会、2018年)が見出す、戦後文化政策の空白性の中、志賀健二郎『百貨店の展覧会』(筑摩書房、2018年)が提示するような戦後消費文化と催事の興隆が進展していく、歴史的背景は未解明なままとなっている。本研究ではこれらの個別研究を架橋し、戦前から戦後を通貫する視座から、講堂、百貨店、公園を「多目的催事空間」として捉え、都市変容と催事との関係を総合的に分析することを着想した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、戦前から戦後期を通貫する視座から、都市において催事の多目的性を備えた屋内施設である講堂、百貨店催事場、および屋外施設として形成されていく公園等の両面から、展開された催事の全体像と相互補完関係、来場者や世論の反応を抽出し、都市における多目的催事空間が果たした機能と役割を解明することである。

### 3. 研究の方法

本研究では、主たる対象地域を仙台に設定し、講堂、百貨店、公園各施設が成立する1930年代前半から、戦災を経て再び各施設が出揃う1950年代前半までの時期設定のもと、当該期東京における事例を射程に収めつつ、各施設で開催された催事の全容と主催者側の意図、来場者や世論の反応を抽出する。その上で催事の多様性を担保した背景、各施設の相互関連性と機能変容に関する比較分析を行い、「多目的催事空間」の歴史的性質を実証的に解明することを試みた。

具体的には下記研究を進めた。

(1) 日本初の研究助成型財団齋藤報恩会の会館講堂について、東北大学史料館や国立科学博物館等に寄贈された齋藤報恩会関係文書を通じて分析し、空襲で休館する1945年までの催事企画運営の実相把握を進めた。

(2) 戦後の多目的催事空間の講堂の中心になっていく東北大学講堂の催事内容と規模拡大について、東北大学史料館所蔵史料の評議会、教授会議事録、催事関係の簿冊から分析を進めた。

(3) 三越仙台支店及び地場百貨店藤崎の催事内容について、当該百貨店がほぼ網羅的に催事広告出稿していた仙台の地方新聞、河北新報から三越・藤崎の催記録を抽出するとともに、国立公文書館、藤崎経営企画部所蔵の催事報告書、社内報の分析を行う。(3) 仙台中心部の西公園における屋外催事を、公園内に立地していた仙台市公会堂との関係にも着目しつつ、仙台市博物館及び仙台市公文書館設置準備室所蔵の利用申請綴・利用規程・統計年報等の歴史公文書から運営状況の抽出を行う。また大量の撮影収集史料の整理が必要なことから、各年度とも研究協力者の補助を得てデータベース化した。

(4) 仙台市公会堂が空襲焼失した後の西公園での屋外催事について、仙台市博物館・及び仙台市公文書館設置準備室所蔵の関係史料を引続き分析するとともに、戦後の公園と商店街路の催事連動性を射程に、東京商工会議所や仙台商工会議所所蔵の、仙台商工会議所報の催記録を調査した。

(5) 全国的動向と接合すべく、東京における「多目的催事空間」について、催事の巡回性も視野に入れ、東京大学文書館所蔵の大講堂に関する歴史公文書や、一橋大学附属図書館所蔵の、百貨店調査彙報ほか、東京都公文書館所蔵の日比谷公園/公会堂等に関する公文書や先行研究を検証した。

(6) 「多目的催事空間」の催事内容、催事主体の意図と来場者・世論の反応について相互比較を行い、戦前から戦後を通じた各催事空間の特徴と、機能変容について明らかにした上で、個別研究を架橋し、全国的視野から戦前・戦後を通貫した都市「多目的催事空間」の役割と機能を解明した。

### 4. 研究成果

本研究では、20世紀都市に形成された講堂、百貨店、公園の各施設がより複合的で多目的機能

を有する「多目的催事空間」と定義し、戦前・戦後を通じて都市における多目的な催事の間であった講堂、百貨店、公園に着目し、設定時期を通じて催事の多様性を担保した背景、展開された催事の全容、来場者や世論の反応を解明した。さらに個別分析に留まらない各施設の相互補完と連動性を抽出することで、多目的催事空間が果たした機能と役割を、総合的に分析した。対象地域として多目的催事空間が比較可能な仙台を取上げ、東京における類似施設の状況、催事の巡回性など全国的視点とも関連させて研究を進展させた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 加藤諭	4. 巻 18
2. 論文標題 戦前期斎藤報恩会における社会事業と催事助成	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東北大学史料館研究報告	6. 最初と最後の頁 49-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤諭	4. 巻 近世・近現代篇
2. 論文標題 戦前戦後の東北の流通経済－百貨店を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東北史講義【近世・近現代篇】	6. 最初と最後の頁 127-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤諭	4. 巻 62
2. 論文標題 戦後東京大学における安田講堂利用～大学紛争以前を中心に～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国史談話会雑誌	6. 最初と最後の頁 22-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤諭	4. 巻 16
2. 論文標題 斎藤報恩会博物館の設立過程と運営方針	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学史料館研究報告	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤諭	4. 巻 46
2. 論文標題 大学アーカイブズの理念と活動・実践：東北大学史料館を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学図書館問題研究会誌	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤諭	4. 巻 21
2. 論文標題 全国大学史資料協議会総会寺崎昌男氏講演「新制大学、それは何だったのか - 生誕にまつわる光と影、そして残した課題 -」参加記	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 全国大学史資料協議会研究叢書	6. 最初と最後の頁 113-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 東北大学史料館の歴史と取り組み
3. 学会等名 日本東北大学史料館與臺灣大学校史館交流研討（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤諭・宮本隆史
2. 発表標題 デジタル時代のアーカイブの諸系譜をたどるために
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第 7 回研究大会サテライト企画セッション
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 歴史研究とアーカイブズ役割
3. 学会等名 日本薬史学会柴田フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 アーカイブをメディアとして読み解く
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第6回大会第2部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 大正～昭和期における藤崎三郎助の百貨店化決断
3. 学会等名 企業家研究フォーラム 2021年度冬季部会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 デジタル公共文書を考える - 公文書・団体文書を真に公共財にするために - その明示的決定・管理プロセスは構築可能か
3. 学会等名 デジタル公共文書を考える - 公文書・団体文書を真に公共財にするために - (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 The Student Movement and University Reform in the 1960s:A Case Study of Tohoku University
3. 学会等名 The Third Tohoku Conference on Global Japanese Studies (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤諭
2. 発表標題 東北大学における旧制高校、旧教養部関係史料の歴史の変遷とアーカイブズ
3. 学会等名 東北史学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 柳与志夫、加藤諭、宮本隆史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 デジタル時代のアーカイブ系譜学	

1. 著者名 野村 俊一、加藤 諭、菅野 智則	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 128
3. 書名 学都仙台の近代 高等教育機関とその建築	

1. 著者名 廣田誠, 山田雄久, 加藤諭, 嶋理人, 谷内正往	4. 発行年 2021年
2. 出版社 五紘舎	5. 総ページ数 214
3. 書名 近鉄・南海の経営史研究:兼業をめぐって	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------